

輸出品目別レポート（もも）

■品目説明

ももの品種は、「川中島白桃」などの白肉系（果肉は柔らかく多汁）と「黄金桃」などの黄肉系（果肉は硬くゴム質）、ネクタリンに大別され、白肉系は主として生食用に、黄肉系は加工用に栽培される。日本のもも（主に白肉系）は高品質で、東南アジアなどの百貨店や高級スーパーなどでは、贈答用の詰め合わせが店頭で並ぶなど人気がある。

令和 6（2024）年産ももの国内収穫量は 10 万 9,700 トン（前年産並）、出荷量は 10 万 2,600 トン（1.0%減）であった。また、全国の結果樹面積は 9,190ha で、70ha（1.0%）減となった。また、都道府県別の収穫量割合は、山梨県が 29%、福島県 27%、長野県が 10% となっており、この 3 県で全国の約 6 割を占めている（農林水産省「[農林水産統計 作物統計調査 令和 6 年産もも、すももの結果樹面積、収穫量及び出荷量（令和 7 年 1 月 18 日公表）](#)」）。

そのほか、青果物に関する詳細情報は、[農林水産省「果樹をめぐる情勢」](#)（2024 年 10 月）、[果樹のページ](#)、[日本青果物輸出促進協議会](#)などを参照。そのほか、関連業界団体として、公益財団法人[中央果実協会](#)、[日本園芸農業協同組合連合会](#)などがある。

なお、種苗法により、「シャインマスカット」など登録品種の種苗等を育成者権者の許諾なく海外に持ち出す行為は禁止されているので注意が必要である（詳細は、[農林水産省品種登録ホームページ](#)を参照）

■貿易概況

2023 年のももの輸出額は前年比 14.1%減の 1,824 万ドル、輸出量が同 7.9%減の 2,155 トンであった（表 2）。主要輸出相手国・地域は香港と台湾で、輸出額全体に占めるシェアは香港が 72.3%、台湾が 20.2%である。輸出額全体の 92.5%がこの 2 地域に輸出されている。

なお、ももは、農林水産省の[輸出拡大実行戦略](#)（2025 年 5 月）の輸出重点品目のひとつであり、2030 年までに全体 180 億円（香港 42 億円、台湾 34 億円、タイ 26 億円、マレーシア 25 億円など）を目標としている。「贈答用需要への安定供給を基本としつつ、贈答用以外の需要への対応」、「富裕層向けを基本としつつ、買い求めやすい価格帯の訴求」などが課題である。

▼表1：日本の桃（ネクタリン含む）輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
香港	15,636,183	1,461	15,968,142	1,808	13,203,721	1,636	△ 17.3	△ 9.5
台湾	4,426,641	388	3,900,504	401	3,687,065	379	△ 5.5	△ 5.5
シンガポール	682,762	46	833,518	76	760,885	78	△ 8.7	2.6
タイ	174,464	11	297,623	30	312,328	35	4.9	16.7
マレーシア	119,456	14	167,176	20	138,405	15	△ 17.2	△ 25.0
全世界	21,103,321	1,926	21,245,960	2,340	18,246,680	2,155	△ 14.1	△ 7.9

注：対象はHSコード 0809.30

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

■海外事情

●香港

2023 年のもも（ネクタリン含む）の輸入をみると、金額は前年比 5.2%減の 7,628 万ドル、数量は同 3.2%増の 3 万 1,593 トンであった（表 5）。主要輸入相手国の動向をみると、1 位のチリは金額が 4,622 万ドル（前年比 5.5%増）、数量が 26,787 トン（同 4.1%増）と前年からさらに伸びた。2 位の日本は金額が 1,976 万ドル（同 23.8%減）、数量が 1,850 トン（同 17.3%減）であった。なお、3 位のオーストラリアは金額が 718 万ドル（同 48.6%増）、数量が 2,247 トン（同 46.7%増）となった。

▼表2：香港の桃（ネクタリン含む）輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
チリ	39,100,733	25,150	43,831,813	25,734	46,222,453	26,787	5.5	4.1
日本	21,376,332	1,710	25,925,886	2,237	19,768,393	1,850	△ 23.8	△ 17.3
オーストラリア	18,959,037	6,632	4,832,635	1,532	7,182,940	2,247	48.6	46.7
米国	2,549,739	602	1,897,262	332	1,043,927	177	△ 45.0	△ 46.7
韓国	2,047,524	281	3,002,819	418	946,904	132	△ 68.5	△ 68.4
全世界	85,763,263	35,144	80,442,173	30,620	76,289,327	31,593	△ 5.2	3.2

注：対象はHSコード 0809.30

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

香港では、縁起が良いと連想される黄金色のゴールデンピーチが人気であるが、日本産の白桃も人気が出てきている。日本産は他国産に比べ、外観が良く、糖度が高く、大玉であることなどから人気があり、日系百貨店や高級スーパーマーケットのほか、果物卸売市場や公設市場での小売店、比較的高級なローカルスーパーマーケットでも販売されるようになっている。

[香港 PF 品目別（青果物）カントリーレポート](#)（2024 年 11 月）にて、香港の市場動向、青果物の輸入規制、輸入手続き（2022 年 7 月時点）など紹介している。

また、香港における贈答用青果物に関しては、香港 PF 深堀カントリーレポート「[香港におけるギフト食品市場～月餅・お菓子・花き・青果物～](#)」（2022 年 11 月）を参照。

●台湾

2023 年のもも（ネクタリン含む）の輸入をみると、金額は前年比 24.3%減の 3,616 万ドル、数量は同 15.1%減の 1 万 776 トンであった（表 8）。主要輸入相手国の動向をみると、1 位の米国は金額が 2,239 万ドル（前年比 33.2%減）、数量が 5,024 トン（同 29.5%減）であった。2 位のチリは金額が 899 万ドル（同 1.7%増）、数量が 5,255 トン（同 7.6%増）、3 位の日本は金額が 444 万ドル（同 4.5%減）、数量が 362 トン（同 8.6%減）となった。

[台湾 PF「日台高雄フルーツ夏祭りアンケート結果に関するレポート」](#)（2024 年 8 月）によると、よく食べる日本のフルーツでももが最も高かった（りんご、ぶどう、いちごと続いた）。

▼表3：台湾の桃（ネクタリン含む）輸入

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
米国	40,763,337	11,387	33,527,773	7,127	23,969,643	5,024	△ 28.5	△ 29.5
チリ	7,295,185	4,140	8,848,610	4,883	10,344,401	5,255	16.9	7.6
日本	4,633,664	384	4,661,382	396	4,500,239	362	△ 3.5	△ 8.6
オーストラリア	1,102,015	391	738,942	286	357,780	135	△ 51.6	△ 52.8
ニュージーランド	211,981	28					-	-
全世界	54,006,182	16,330	47,776,707	12,693	39,172,062	10,776	△ 18.0	△ 15.1

注：対象はHSコード 0809.30

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

●その他

タイについては、タイ PF 深堀カントリーレポート「[タイ輸入における 青果物・畜産物の輸入検査実態調査](#)」（2023 年 3 月）、「[タイにおける他国産輸入青果物の 輸入・販売・評価等調査](#)」（2023 年 1 月）にて、現地の青果物に関わる状況をまとめている。

ベトナムについては、ベトナム PF「[品目別カントリーレポート 青果物](#)」（2024 年 3 月）にて、ベトナムにおける市場概況、市場動向、流通、販売、法規制、流通業者から日系事業者への提言など、また、「[品目別カントリーレポート 競合国の比較（青果物、畜産物、水産物、乳製品）（販売戦略と商流構築）](#)」（2024 年 12 月）でも、ベトナムにおける輸入動向、国内における消費の特性、流通構造、主な輸入・卸業者、現状の課題などをまとめている。

・[JFOODO「シンガポールの今がわかる！現地”食”情報レポート」](#)（2025 年 3 月）

ジェトロ「[現地市場価格調査](#)」では、青果物の主要都市における市場価格をまとめている。

青果物の輸入規制、輸入手続きに関して、[ジェトロのポータル](#)にて、香港、台湾、韓国、中国、マカオ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、インド、フィリピン、米国、カナダ、EU、英国、ニュージーランドを取りまとめている。

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル

TEL：03-3582-5186

【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。